

令和5年度 兵庫県立北条高等学校 学校関係者評価

【管理職による学校運営に関する中期目標】

令和7年度の人間創造コース廃止に伴う新学科開設によって北条高校の発展を図る。

【令和5年度目標】

- ・新学科のカリキュラム案を完成させ、探究活動について職員のスキルアップを図る。
- ・教職員の資質向上と勤務時間の適正化の両立を図る。

【学校運営に関する単年度目標と自己評価】

A:十分達成した B:おおむね達成した C:不十分だった

部署	単年度目標	評価	総括(課題と改善策含む)	学校関係者評価 (コメント)
管理職	【勤務時間の適正化】 ノー部活デー、ノー会議デー、定時退勤日の周知徹底を図り、ビルド&スクラップを実行する。	B	【成果】 ・1学期と比較して2学期の定時退勤日等の実践率が向上し、月別の超過勤務時間数は減少した。 ・朝の職員打合せの簡素化、校運・職会の議題の精選、学校行事の精選(マラソン大会の廃止)等、一定の成果は認められる。 【課題】 ・ビルド&スクラップの新しい取組(ビルド)はかなり進んだが、相応のスクラップが足りていない。	・業務改善により、月別の超過勤務時間数が減少したことは、喜ばしいこと。既成概念にとらわれず、新しい取組に見合ったスクラップの推進により、「職員の働きがい」が向上することを期待する。 ・永年続いていることなので、改善にはもう少し時間が必要ではないか。 ・よいことかと思が、スクラップに集中し、これまでの良い点をなくしたり、職員間のコンセンサスを得ずに進めると、関係性が悪くなる懸念がある。 ・バランスの取れたビルド&スクラップの推進を期待する。 ・再度、その事業に対して目標や実現したい生徒の姿を描くと、その事業の本質が見え、本質を吟味するためのスクラップかどうか判別が容易となる。 ・以下の全ての評価において、その根拠となる材料(アンケート結果等)を示してほしい。
	【教職員の資質向上】 教育研修所での選択研修、校内研修、他校の取組見学、自主研修等の研修を奨励し、既成の授業観にとらわれない授業づくりを行う。	B	【成果】 ・他校の発表会、研修への参加が大きく増えた。 ・文理教科の合教科研究授業ができ、文理融合、教科横断の授業展開に見通しができた。 【課題】 ・研修で得られた知識・情報の全教員での共有が不十分。 ・全教員が均等に研修の機会を得られていない。研修の参加意欲にも差が生じている。	・文理融合や教科横断の授業の展開に伴い、特定の職員に負担が集中することが懸念される。ノウハウの共有・蓄積により、業務の平準化が必要。 ・良いことだが、消化しきれないこともある。急がず、できるところからやっていくことが大切。 ・超過勤務の発生を抑制するためにも、参加者に偏りが出ないように平準化が望まれる。

【各部署における中期目標】

新学科設置に向け、普通科も含めた全体の教育内容やカリキュラムを再編する。

[令和5年度]

- ・新学科イメージ図(ポンチ絵)の完成
- ・新学科の教育課程の仮完成
- ・教育内容の一部先行実施

【各部署の単年度目標と学校評価】

A:十分達成した B:おおむね達成した C:不十分だった

部署	単年度目標	評価	総括(課題と改善策含む)	学校関係者評価(コメント)
総務部	【新しい学びへの環境整備】各部署と連携して、生徒の学習意欲につながるような環境を整備する。	B	HR教室のイスの更新があと1学年分残っている。周年事業によって中庭の整備が行われ、その活用を広げる。また、探究に役立つような図書の実施も図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・100周年事業によって整備された記念広場の有効活用を検討してもらいたい。 ・計画的な推進をお願いしたい。 ・高等学校も対象である「ひょうご子どもの読書活動推進計画(第5次)」がリリースされる。不読率(一ヶ月に一冊も読まない高校生の割合)が50%前後を占め、大きな課題となっている。この課題や対応など共有をすすめる。 ・教育環境について、予算を伴い、難しいかと思うが、斬新かつ機能的な環境を生徒も保護者も求めている。
教務部(カリキュラム委員会・総探委員会)	【新学科イメージ図】新学科の学びについて、教務部とコース委員会を中心に多くの教員の意見を踏まえながらデザインし、イメージ図として落とし込み、公開する。	A	関係先と意見交換を進めたり、若手教員の感性などを活かしたりしながら、新学科の教育内容を検討しながら、イメージ図にしていくことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・創立100周年を迎えた北条高校の新たな一歩として「新学科」を付加価値の高いものにしてもらいたい。 ・良いこと。引き続き、お願いしたい。
	【教育課程】普通科、新学科ともに令和7年度入学生の教育課程を次の方針のもとで再編する。 ①原則7限を廃止して生徒に時間を返す。 ②単位制のもとで多様な選択を生徒自身ができるようにする。 ③STEAM教育や文理融合を見据えた教育課程を編成する。	A	カリキュラム委員会を中心に教育課程の検討を進めることができ、基本的な枠組みを完成させることができた。また、新設する科目を中心に、その内容までを含めた検討を進めることができ、形だけで終わらない議論を進めることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・「単位制」の導入に伴い、生徒の興味、関心等を充足するような「科目」の充実を期待する。 ・良いこと。特に時間を生徒に返すというのがいい発想。 ・引き続き、お願いしたい。

部署	単年度目標	評価	総括(課題と改善策含む)	学校関係者評価 (コメント)
	【探究活動】新学科の設置に向け、現状の総合的な探究の時間をより探究的な内容に改善する。特に普通科1年生においてSTEAM教育の要素や、探究に必要な「問いの立て方」について、大学から講師を招く等により改善した内容とする。	B	名古屋外国語大学竹内准教授の指導助言をいただきながら、より探究的な内容を検討し、1年生で導入した。手探り状態のなかでありながら、教員・生徒ともに試行錯誤を重ねて探究を進めることができた。一方で、内容や展開が十分満足できるものだったとはいえ、より体系だったカリキュラムにしていかなければならない。現1・2年生の探究の成果と課題を踏まえ、来年度1年生の探究カリキュラムについて改善案を立てることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋外国語大学の外部講師の指導等により、更に充実した探求カリキュラムの構築を目指してほしい。 ・まさに試行錯誤でよいものを作ってほしい。 ・来年度に期待している。 ・期待されていると思うからこそ、追求及び精微化が求められる。
進路指導部	【キャリア教育】進路ガイダンスやインターンシップ等の機会を充実させ、生徒が自身の将来について考え、個人の可能性を広げていくための支援を行う。また、生徒が自ら活動の目的や自身の課題を明確にできるように事前事後指導を大切にす。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や希望進路に合わせてガイダンスを実施した。また、看護医療体験、保育体験、県庁インターンシップ等、興味や関心に合わせて多くの生徒が活動に参加した。 ・1学年対象のキャリアガイダンスを早期に実施する等、進路支援のさらなる充実を目指していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適性を早期に把握し、生徒に寄り添った進路支援を期待する。 ・継続してもらいたい。 ・一学年から進路を意識した活動ができるような指導をお願いしたい。
生徒指導部	【校則の見直し】本校の生徒会諸規定と生徒心得等の内容が適切で妥当性があるかを検証する。	A	規定に基づき、委員会や生徒会活動を中心に生徒会諸規定と心得等の内容を見直すことができた。今後も生徒の意見を大切にしながらルールの在り方を考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・校則については、生徒会の意見を取り入れ、適切なアップデートを期待する。 ・今後も定期的な見直しを求める。
	【生徒会行事の改廃】行事を実施する目的や内容を見直し、意味のある充実した行事運営を目指す。	B	行事实施の意義を考え、目的や内容を見直し、生徒主体の行事運営に移行できるよう検討を進めた。	<ul style="list-style-type: none"> ・既成概念にとらわれず、生徒が自ら進んで参加したい行事を選別して開催してほしい。 ・良いこと。 ・行事の改廃には、生徒の意見を聴取するプロセスを入れてもらいたい。

部署	単年度目標	評価	総括(課題と改善策含む)	学校関係者評価(コメント)
情報部	【ICTの効果的な活用】BYOD2年目となり、学習活動のなかで効果的にICTを活用していく。また、研修等をとおして、教職員に効果的な活用法を広めるだけでなく、それを生徒に還元していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科によって活用頻度に偏りがあるものの、探究活動では活用できるようになってきた。 ・研修において、今年度は年度末に一度の予定だけなので、来年度は研修の回数を増やし、授業や探究活動で効果的にICTを活用していき、また校務では会議のペーパーレス化を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科で偏ることなく、積極的にICTを有効活用し、ペーパーレス化を推進してほしい。 ・良いこと。 ・まず、使っていくことが大切で、教科ごとの偏りが出ない配慮を願う。 ・事例紹介を主とした(教科を越えた)ICT活用の授業研究も必要。
コース委員会	人間創造コース1期生から行っているフィールドワークを中心とした探究活動を、今後、教科「探究」として位置付けるための準備を進める。大学教授等の有識者の助言を受けながら、活動で得た1次情報をもとに、「問いを立てる」方法を学び、実際に自ら課題を見つけ、「問い」に発展させる方法を身につけさせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・JAXA 東京研修、名古屋外国語大学語学研修、ロケット制作打ち上げ等、本物に触れ体験する機会を今年度も設けることができた。また、普通科の生徒も巻き込んだ取組を増やし、コースが学校全体の活動を牽引する形で、積極的活動を行えた。有識者による助言指導を受ける機会も持つことができ、現行のフィールドワークを次年度は探究につなげていけるよう、現在学びの途中である。 ・持続継続して有識者の助言指導を受けられるよう、多忙な中での日程調整と時間の確保が今後とも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフワークバランスに留意しながら、本物に触れ体験できる機会を生徒全員に与え、その人間的な成長を期待する。 ・良いこと。比較的理系的な活動が多いので、文系的な活動や芸術的な活動にも広げられることを検討してほしい。 ・高評価だからこそ、追求及び精微化が求められる。